

シンポジウム
「軽トラ市とまちづくり」

- パネリスト：河合正志氏（軽トラはままつ出世市 実行委員長）
山下貢史氏（みんなで軽トラ市いわた☆駅前楽市実行委員会 代表幹事）
落合 悟氏（かけがわけっトラ市実行委員会 会長）
森 一洋氏（しんしろ軽トラ市のんほいルロット スタッフリーダー）
中野祐介氏（浜松市長）
草地博昭氏（磐田市長）
久保田 崇氏（掛川市長）
下江洋行氏（新城市長）
鈴木俊宏氏（一般社団法人日本自動車工業会 軽自動車委員会委員長
スズキ株式会社 代表取締役社長）
武田裕介氏（一般社団法人日本自動車工業会 軽自動車委員会委員
ダイハツ工業株式会社 営業 CS 本部長）
- コーディネーター：戸田敏行氏（愛知大学三遠南信地域連携研究センター センター長）

日時：2023年12月2日（土） 場所：ホテルクラウンパレス浜松
主催：第8回全国軽トラ市inはままつ実行委員会、愛知大学三遠南信地域連携研究センター

○司会：今回のシンポジウムは、実行委員会と、長い間、全国の軽トラ市の研究を続けています、戸田敏行センター長を中心とする愛知大学三遠南信地域連携研究センターとの共催にて、「軽トラ市とまちづくり」をテーマに開催させていただきます。本日は、愛知大学の学生の皆さまも大勢お手伝いにていただいています。ありがとうございます。それでは、戸田先生よろしくお祈いします。

○戸田：ご紹介をいただきました、愛知大学の戸田と申します。軽トラ市の魅力に取りつかれて、10年近

く研究をさせていただいています。今日は「第8回全国軽トラ市inはままつ」シンポジウムで皆さま方の話を伺うことができることを、大変楽しみにしています。それでは、軽トラ市の状況を少し振り返って、それから、ご登壇の皆さま方のご紹介をしたいと思えます。今日のテーマは「軽トラ市とまちづくり」(図表1)です。軽トラ市をずっとやっている皆さま方にとっては当たり前のことかもしれませんが、よりいろいろな面から軽トラ市とまちづくりを考えてみようということこのテーマが選ばれました。

図表2は全国の軽トラ市です。これは、直近 2023



図表1 第8回全国軽トラ市 in はままつ



図表2 全国軽トラ市の分布 定義

年の状況を自工会でお調べになったものですが、大体130の軽トラ市があるということです。多分もっとあるのではないかとありますが、一般に100～200といわれています。そう考えると、零石の皆さんが正面にいますが、第1回の2005年から随分日本中に広がったと思います。コロナでまだ戻っていないところもありますので、それを入れるとこの数はもっと多いだろうと思います。

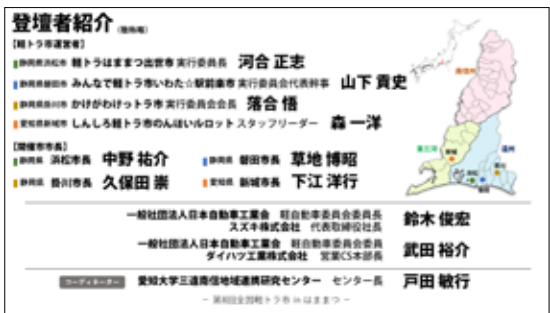
右側に軽トラ市の私的定義を3つ書いています。1つは、軽トラックに代表される軽自動車を店舗に見立てているということで、大原則です。もう1つは、定期的に開催されているということです。川南は「定期朝市」というのが名称の頭に付いていますが、定期的で開催されている、これがやはり力だと思えます。3点目、これがあるいは最も重要なことだと思えますが、地域の方々が運営しているということです。これがまちをつくっているということの力だと思えます。

今日は第8回になりますが、図表3に全国軽トラ市の歴史を示しています。第1回は零石でお考えになって、軽トラ市、相互のノウハウ、知恵を交流していくということが狙いです。第1回では軽トラ市サミットといわれていたと思いますが、それがずっと続いてまいりました。図表3には思い出の写真を貼らせていただきました。前は真ん中あたりに映っていますが、長野県の長野市篠ノ井でした。先ほどの会議では、全国大会以降上り調子だということを伺い、非常に良いことだと思えました。

そして、その右の写真が、全国軽トラ市ではありませんが、ジャパンモビリティショー2023です。何となく思い出のような感じがしますが1ヶ月前です。旧東京モーターショーで、東京ビッグサイトに集まった軽トラ市です。軽トラ市というのが日本の中でだんだん普通の言葉になっているというふうにも思います。こういう前提を踏まえたいうえでの本日の第8回全



図表3 全国軽トラ市の経緯



図表4 登壇者紹介

国大会のシンポジウムということです。

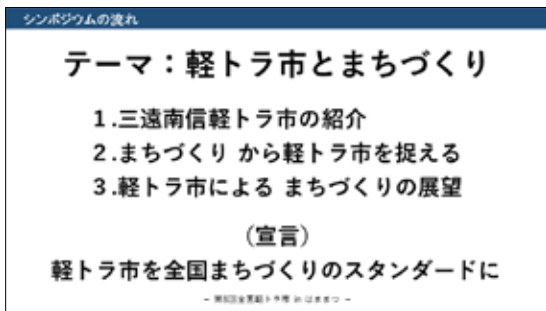
図表4は今日ご登壇いただく方々のお名前です。簡単にご紹介したいと思います。まず最初に軽トラ市の運営団体の皆さんです。最初に浜松です。軽トラはままつ出世市実行委員長の河合正志さんです。続いて、同じ静岡県磐田市、みんなで軽トラ市いわた☆駅前楽市実行委員会代表幹事の山下貢史さんです。それから、掛川市、かけがわけつトラ市実行委員会会長の落合悟さんです。そして、愛知県新城市、しんしろ軽トラ市のんほいルロットスタッフリーダーの森一洋さんです。

それから、軽トラ市開催市の市長さんです。まず、浜松市長の中野祐介さんです。続いて、磐田市長の草地博昭さんは、健康上の理由で今日は急きょ欠席となりました。メッセージが届いていますので、後で私が読みたいと思います。続いて、掛川市長の久保田崇さんです。続きまして、新城市長の下江洋行さんです。

そして、日本自動車工業会軽自動車委員会委員長、スズキ株式会社代表取締役社長の鈴木俊宏さんです。そして、同じく軽自動車委員会委員、ダイハツ工業株式会社営業CS本部長の武田裕介さんです。

以上、人数が多く、お一人お一人の発言の時間が短くなっていますが、多面的に軽トラ市のお話をいただければありがたいと思います。

図表5は今日のお話をいただく順番です。3つ挙げています。まず最初に、三遠南信軽トラ市の紹介です。図表4の右側に地図がありますが、愛知県の東三河、静岡県の遠州、そして、長野県の南信州という県境を越えたエリア、このエリアを三遠南信と言います。ここでの軽トラ市ということで、三遠南信地域は地域づくりを県を越えてやろうとしています、その中で軽トラ市のつながりを考えていこうということです。次にまちづくりから軽トラ市を捉える、3つ目は軽トラ



図表5 シンポジウムの流れ



図表7 軽トラはままつ出世市 開催概要

市によるまちづくりの将来の展望ということです。
 最初に本日の宣言を出すのがいいかということですが、時間が限られていますから、最初に宣言をあげて、ここへ至るディスカッションというふうな期待をしています。宣言は、「軽トラ市を全国まちづくりのスタンダードに」です。軽トラ市が全国のまちづくりのスタンダードになっていくんだということで、大変素晴らしいと思います。
 それでは早速ご発言をいただきたいと思います。最初に三遠南信軽トラ市の紹介ということで、浜松市のはままつ出世市について河合さんからお願いします。

1. 三遠南信軽トラ市の紹介

○河合： それでは最初に、「軽トラはままつ出世市」の概要を説明したいと思います（図表7）。

まず、場所ですが、JR浜松駅からすぐ近くのメインストリートであります、鍛冶町通り・モール街という場所です。こちらは通常だと車が通行していますが、軽トラ市では車両を通行止めにして、歩行者天国にて開催をしています。

時期は毎年11月の第4日曜日です。今回につきましては、全国ということで、明日ということになってい

ます。来場者ですが、コロナ前だと約3万人ぐらい来ていると、そのような集客状況です。通常だと軽トラが60台、それから、歩行者天国でステージイベントをしたり、商店街と連携して抽選会をしています。

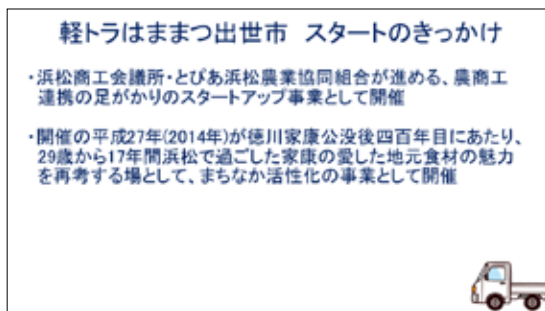
地元では有名な法多山の厄除団子。通常だと法多山という近くの寺院にあります、このお団子も非常に人気になって特別販売をしています。

スタートのきっかけですが、先ほどの、軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会（通称：軽団連、以下「軽団連」と表記）で話を聞いていると、それぞれの地区でやはりきっかけや目的が少し違う部分があると思います。浜松の場合は商工会議所とJAとびあさん、こちらが進める農商工連携が足掛かりとなりました。それから、開催の平成27年は家康公の没後400年ということで、浜松で過ごした家康の愛した地元の食材の魅力を再考する場ということで、まちなか活性化の事業として開催をしたのがきっかけです。

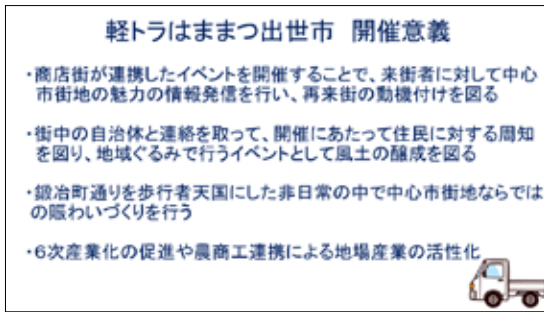
開催の意義としましては、商店街が連携して中心市街地の魅力の情報発信を行って、少しでもまた来ていただける、そういった動機付けを図るということです。それから、今回もそうですが、自治体と商店街、それから周辺の農家さん、これらの地域ぐるみで行うイベントとしての意味があります。それから、まちな



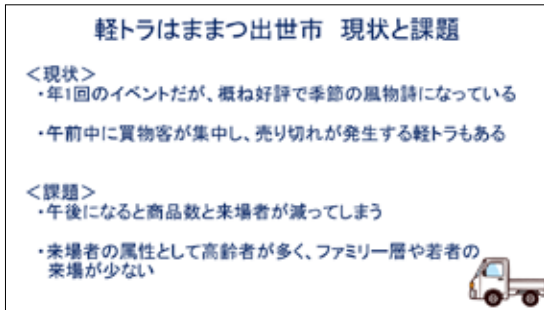
図表6 静岡県浜松市 軽トラはままつ出世市



図表8 軽トラはままつ出世市 スタートのきっかけ



図表9 軽トラはままつ出世市 開催意義



図表10 軽トラはままつ出世市 現状と課題

かということでは、非日常の中で中心市街地ならではのにぎわいをつくっていくといったような意味合いがあります。また、6次産業化の促進や先ほど申し上げましたような農商工連携、こちらで地場産業の活性化を行うといったような意義があります。

現状と課題です。年1回のイベントになっていますが、おおむね季節の風物詩になっています。午前中に買い物のお客さまが集中して売り切れが出る、そのような軽トラさんもあります。

逆に、課題としましては、商品数が午後になると減ってしまい、来場者がそこにとどまっていないという部分があります。属性としましては、高齢者が多くファミリー層や若者が少ないということです。その辺が課題ということで、明日は若者を狙って、場所は通行止めのところから歩いて1~2分のところですが、キャンプグッズの販売や若者受けするキッチンカー、こちらの充実を図っています。これらが今回実施している内容です。浜松は以上です。

○戸田：ありがとうございます。大規模な軽トラ市ですね。3万人を集められるという軽トラ市で、さまざまな工夫もされているということをお話していただきました。では続きまして、磐田軽トラ市の山下さんをお願いします。



図表11 静岡県磐田市 みんなで軽トラ市いわた☆駅前楽市

○山下：皆さん、改めまして、先日 J1 に昇格しました、ジュビロ磐田のお藤元の磐田から来ています、「みんなで軽トラ市いわた☆駅前楽市」の山下と申します。よろしくお願ひします。

われわれ磐田の軽トラ市は、東日本大震災の直後、2011年3月から開催をしました。年4回開催していきまして、来週12月10日日曜日の開催で52回を迎えることができます。

特徴は、毎回100台ほどの出店者さんが参加され、毎回約1万人近くの来場者さんが駆け付けてくださいます。たった3時間余りに、出店者さん全体で約数百万ほどの売り上げを上げているのが特徴です。また、商店街のお店もこの日ばかりは普段より売り上げが上がっています。

始めた狙いは、ここにいる全国の軽トラ市の主催者様と同じで、このまちを何とかしたいという熱い思いや、自分が商売をさせてもらっているまちに興味を持ってもらいたい、人通りを多くしたい、にぎやかにしたいという思いからです。簡単に、また単純に思っただけで始めたことが12年経過しました。正直ここまで長くとは思っていませんでした。

開催当初から、90台を割らない出店者さんが応募



図表12 みんなで軽トラ市いわた☆駅前楽市 商店街活性化イベント「いわた☆駅前楽市」のご紹介



図表 13 みんなで軽トラ市いわた☆駅前楽市について



図表 16 駅前商店街の移り変わり



図表 14 軽トラ市開催中のジュビロード



図表 17 商店街で育った店主の思い



図表 15 軽トラ市開催による効果



図表 18 直近の新しい取組について

してくださり、直近の9月開催まで、ずっと来場者数も出店者さんの売り上げも安定しています。また、立ち上げ時から商工会議所の皆さん、市役所、地元の静岡産業大学の学生、地元の小中高生、地域の各種団体、自治会、出店者さん、来場者さん皆に支えられ、ありがたく思っています。

直近の取り組みにつきましては、開催から12年、さまざまな取り組みをした中で、近年ではデジタル化を意識した取り組みも行っています。1つ目は、紙媒体の良さを残しつつも、LINE等を活用し、告知、出店者の紹介、当日の出店者の配置図等を配信しています。現在、LINEの登録者数は3,200人ほどです。明日も会場でLINE登録ができますので、皆さんぜひお

越してください。2つ目として、Twitter、今のXも活用し、当日のリアルタイムの抽選会等を発信しています。3つ目は、軽トラ市のサイトを開設したり、お取り置きサービス等の実証実験なども行いました。今後はInstagramも開設したいと思っています。

また、市内各地で行われている団体との連携も図っています。福田の夜店市や磐田のとよおか軽トラ市、磐田の御厨軽トラ市、各マルシェの開催など、駅前の軽トラ市から市内各地へ波及して、今もなお継続して開催されています。

しかしながら、運営をしていく中で課題も増えてきました。1つ目は、新しい仲間、店主や地元の自治会だったり、交通整理員、ボランティアの確保に、今、



図表 19 軽トラ市の課題について



図表 20 いつも賑わう商店街を目指して…

奮闘しています。また、運営の簡素化をいろいろ検討しています。磐田まちなかのジュビロードというところでやっているのですが、県道という主要道路であるが故に、交通規制等に係る人員、それに係る人件費の高騰、出店車両の搬入方法、進入方法等、いろいろ複雑な問題があり、悩まされています。3つ目は、12年続けてきたわれわれ運営者の形骸化ということです。他の団体の方も10年以上やっていると思いますが、われわれの中でも少し意識改革をしなければいけないということです。本来、われわれは赤いベストなのですが今日は黄色を着ています。実は今、ベストを新調して気分一新、軽トラ市に取り組みようと思っています。次回3月ぐらいにはお披露目できると思いますので、その時にはご来場をお願いします。

今後に向けて、何よりも、われわれ運営者自身が楽しんでるかというところを考えています。そして、磐田市は、先ほど言いましたサッカー、ラグビー、卓球などのプロスポーツのまち全国1位となっていますが、その資源をどのように生かすかが課題であり、引き続き、いつもにぎわう商店街を目指してこの軽トラ市を継続していきたいと思っています。以上になります。

○戸田：ありがとうございます。ベストの赤が黄色になったということは次は青ですね。やはり進んでい

く、順次上がっていくという感じがします。ありがとうございます。新たな試みで、DXの導入もとても興味深いと思います。続いて、掛川軽トラ市の落合さんをお願いします。

○落合：掛川の落合です。よろしくお願いします。掛川はけっトラ市と言っているのですが、これは方言です。軽のワンボックスのことも「ケッパコ」なんて言ったりしています。軽トラのことを「けっトラ」と言って、それを市の名前にしています。鈴木修相談役からは、あくまで軽トラだと前に怒られたことがありましたが、これはあくまで掛川での呼び名です。少しご容赦いただきたいと思っています。

資料に基づいてお話しします（図表22）。第1回の開催日時は平成22年の10月16日です。これは、実を言うと静岡県で一番早い開催です。全国大会は先に開催されてしまいましたが、磐田さんより5カ月ぐらい早いです。毎月第3土曜日、午前9時から正午までやっています。今月も16日、第3土曜日に開催しますが、135回目となります。コロナで中断していなければ、多分160回以上の開催になっているのではないかと思います。2年ほど中断してしまったので、その分回数が少し減ってしまっています。それでもここまで何とかやってこられたのも皆さんのおかげだと思っています。



図表 21 静岡県掛川市 かけがわけっトラ市

かけがわけっトラ市（静岡県掛川市）実行委員長 落合慎	
開催概要	
開催日時	第1回：平成22年10月16日（土） 毎月第3土曜日の午前9時から正午まで 例年12/18で、1回休み！
場 所	掛川駅前北口から西への駅前通り
主 催	かけがわけっトラ市実行委員会 構成：静岡商工会議、本町会、掛川商工会議、掛川市、 おひらき会、まちづくり推進協議会
開催人数	前回は400名程度（130名は子どもと家族）、開催は200名（200名） 集客数：平均約1,500名（コロナ前は平均約3,000名）
軽トラ市の成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> ・軽トラの集客で、三次軽トラ市を回り、広域圏まで軽トラ市をやりたい！ ・自治、市民参加型で商業施設でイベント化を推進、自治、一環に！ ・当市の友好府会連の代表の助言と助成、助成、依頼、呼びかけを、行政の協力もあり、警察を前線から支援決定。

図表 22 かけがわけっトラ市 開催概要

ます。

場所は、掛川駅の北口からすぐの駅前通り、南北の通りです。主催は実行委員会形式で、構成員は図表22にあるとおり、さまざまな団体が構成しています。

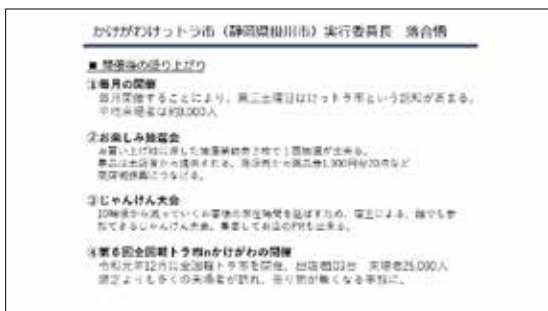
出店は、当初は20台前後でコロナ前は40台と書いてありますが、一番多い時は50台を超えた時もありました。今は大体30台前後ぐらいです。正直に言って今はエリアも一番広い時の半分ぐらい、最初に実施した時とほぼ同じエリアでやっています。

集客数も、コロナ明けの今は大体1,500人ぐらい、それより少ない時もあります。コロナ前は平均3,000人はコンスタントに来ていましたので、そう考えるとまだまだ回復をしていないのかなという気はします。

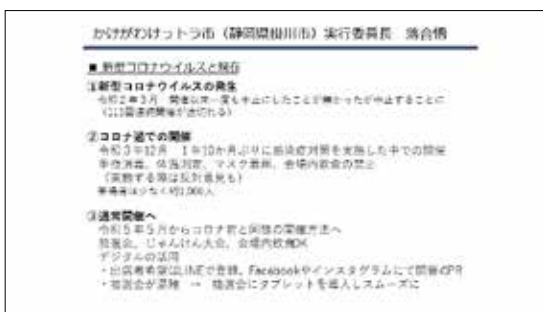
成り立ちとしては、それこそ、お隣に森さんがいらっしゃいますが、3大軽トラ市で一番近くが新城さんだったので、新城さんに視察に行き、それで掛川でもやろうということでやらせていただいています。当時、私は軽トラ市にあまり関わっていませんでした。私は今、商店会の会長もやっていますが、私の2代前の会長が熱意を持ってぜひやりたいということで始めたのがきっかけです。

その開催方法にしても、初めは警察を納得させてと書いてあります。掛川市の駅前の通りは歩道が結構広いので、最初は歩道にトラックを止めてという話をしていたのですが、警察がそれは困るということで、車道に止めて、交通規制をかけてならやってもいいという話にどうもなったようです。それで今もその方法でやっています。いろいろな事件があって、道路交通法が変わったりして微妙に交通規制のやり方も変わっています。事件が起こる度に警察からいろいろ言われることが増えているので、その辺も何とかクリアしながら続けています。

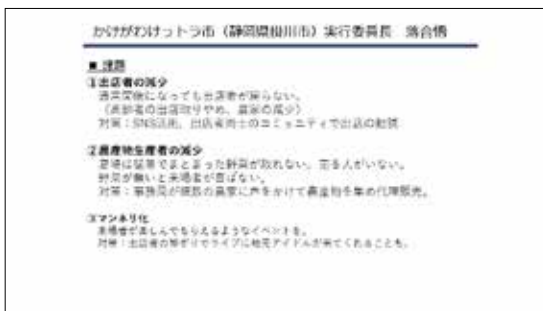
開催した後の盛り上がりは図表23に書いてあるとおりです。一番盛り上がったのは、正直に言ってコロ



図表 23 かけがわけっトラ市 開催後の盛り上がり



図表 24 かけがわけっトラ市 新型コロナウイルスと現在



図表 25 かけがわけっトラ市 課題

ナ前の2019年です。第6回の全国大会もやらせていただきました。12月の8、9日だったと思いますが、かなりにぎわって、無事に終えることができました。それこそコロナの関係もあってだいぶ中断もしたり、再開してもなかなかコロナ前のにぎわいまでにはいかないですが、何とかいろいろ対応しながら、徐々にコロナ前に近づくように努力をしている段階です。

課題としても、図表25にあるように、10年以上もやっていますので出店者の方が高齢化して出店できなくなったり、いろいろな事情もあって出店数も減っています。それから8月、9月も開催していますが、このところの猛暑で野菜が採れなくて売り物が無いというのもあり、少し厳しい状態になっています。あとは、マンネリ化を防ぐようなこともしていますので、だんだん良い方向に向かっているのではないかと考えています。すいません。時間を過ぎましたので、以上とさせていただきます。

○戸田：ありがとうございます。けっトラ市と言わないといけませんね。私も軽トラ市と言っていました。ありがとうございます。コロナはどれも本当に大変なことだったと思います。また後ほどその議論になるかもしれません。続きまして、しんしろ軽トラ市の森さんお願いします。

○森：しんしろ軽トラ市ののんはいルロットです。よろしくお願ひします。私は毎年ここでしゃべらせていただきますので、ポイントだけ絞ってスピーディーに進めていきたいと思ひます。図表 27 の地図の真ん中に薄い網掛けで T の字になっているところがあります。これが新城駅前の中央通り商店街と、再開発でできました広い道路です。

まず、特記すべきところは、この T の字の右の角のところとす。来年の 3 月、何とここにスズキ自販東海さんの販売店が新築オープンします。今、建築中ですが、できます。新城は、戸田先生に先日名付けていただきましたが、日本ど真ん中軽トラ市ということ、ほぼ日本の真ん中にありますので、ど真ん中軽トラ市のまたど真ん中にスズキ自販さんの大きな販売店ができるということで、商店街にとつても非常に明るいニュースで喜んであります。

開催回数は先週日曜日で 145 回になりました。出店台数も今はコロナ前に戻ってしまつて、70 台です。来場者数は大体 1 回当たり 2,500 人ぐらいです。前は拡大版でしたので、4,000 人近くの来場者がありました。

図表 28 は毎回の開催概要ですが、皆さん方とほぼ同じです。ちょうど右の写真の右に白いテントが見え



図表 26 愛知県新城市 しんしろ軽トラ市ののんはいルロット



図表 27 しんしろ軽トラ市ののんはいルロット：開催概要



図表 28 開催概要

ますが、この奥あたりにスズキ自販さんの販売店ができるということで、いろいろ協力しながら、お祝いもしつつ、軽トラ市にも非常に良い影響が与えられるのではないかとこのことでわくわくしています。

軽トラ市の前段階では、新城市から要請があった中心市街地の活性化委員会というものがあり、そこから生まれたまちづくり会社を経営する中で、最終的に軽トラ市が生み出されたという経緯となっています。第 1 回は 2011 年の開催で、当時の全てのテレビ局や新聞社が取材に来られて、第 2 回目は人であふれかえって困ったという経験がありました。

次に、継続開催することで地域にどういふ波及効果があるかということです。まず、月に 1 回ですが、商店街に非常に多くの方が行き来します。新城市もご多分に漏れず毎年 1 軒、2 軒と店を閉じていく仲間がいる中で、やはり継続されている商店さんには後押しになり、次の軽トラ市では何を売ろうかということで、毎月、次の営業に向けて元気を取り戻すことができるという効果があります。

それから、遠方から出店者が来られますので、出店者の営業の仕方を見て刺激を受けます。あるいは、来場者も、普段は来ないような、車で 1 時間圏内からも



図表 29 新城軽トラ市「のんはいルロット」はどのようにして生まれたか。



図表 30 軽トラ市の継続開催の意義とは？

来られます。各お店に立ち寄りたりすると遠くのお客さんの感覚ということがお店に伝わりますので、営業の視点が変わったりします。それから、地域のいろいろな団体が、ダンスの発表であったり、演奏であったり、成果発表であったり、宣伝ができる場所として利用活用をされています。

最後です。軽トラ市を運営していく上での課題です。やはり、ご多分に漏れずスタッフの方が少しずつ減っている中で、これは明るいニュースでもあるのですが、先ほども申し上げました地元中学生の方が毎回7～8人手伝いに来てくれたり、地元の大学生の方がスタッフとして参加してくれています。若い方が参加してくれているということで、非常にフレッシュなスタッフの陣営になっていますので、スタッフ問題は少し解消しつつあります。これも、軽トラ市をやっているスタッフが楽しそうにやっているから皆さんに来ていただけたということで、先ほど山下さんがおっしゃられたとおり、スタッフも楽しまなくてはいけないと思っています。

会場内で、今一番の問題は喫煙問題です。禁煙にしていかがうかということのを会議で検討しています。あと、トイレ不足やごみ箱、休憩場所等、十何年たっても課題が尽きないということで、やりがいのあるイ



図表 31 軽トラ市を運営していく上での課題など

ベントになっています。以上です。ありがとうございます。

○戸田：ありがとうございました。新城は私どもの調査フィールドですので、毎回行かせていただいて、軽トラ市を味わわせていただいています。ど真ん中というのは、川南の市来原さんと話している時に新城は「真ん中でしょう」ということで、私が「ど」を付けて、ど真ん中ということです。一つ一つの軽トラ市の特性が名称に出るのも大変面白いと思います。軽トラ市同士の緊密度が高いということですね。

それでは、次に「まちづくりから軽トラ市を捉える」です。軽トラ市はずっと運営者の方が担ってきたということですが、より広く、まちづくりの中から軽トラ市というものを捉えてみようというのが今回の一つの新たな切り口だと思っています。そこで、各市の市長さんから、この軽トラ市を市全体の中で、あるいは、まちづくりの中でどう捉えるかということをお話いただきたいと思っています。順番は、新城市長さん、掛川市長さん、浜松市長さん、その後、自工会から鈴木委員長、武田委員にご発言をいただきたいと思います。それでは、新城の下江市長からお願いします。

2. まちづくりから軽トラ市を捉える

○下江：新城の軽トラ市ですが、毎月第4日曜日に固定で開催されていることで、地域に根付いたイベントとなっていて、中心市街地の活性化や地域振興に大変大きく貢献していると思っています。既に14年目に入りました。

軽トラ市の開催場所であります新城市の中心市街地の街道筋ですが、ここは、江戸期以降、東海道吉田宿、豊橋から1級河川の豊川を北上しまして、信濃路と美濃路に分岐する、いわゆる要所となった場所でした。豊川の舟運と陸路による陸運の結節点であったため、大変多くの物産が集まりまして、それを運ぶ荷馬が行き交い、街が繁盛し、活気に満ちあふれた歴史があります。山あいの港に馬が動く様子を海の波のように例えて、山湊馬浪と言います。山の湊、馬の浪で山湊馬浪です。中心市街地の通りは今や旧道となっていて、交通量が多く、沿道サービス業に好立地の国道151号線のバイパス沿いに店舗を移転したお店も大変多くあることから、お店の数は減少しました。

しかし、軽トラ市の開催によりまして、徐々に既設の固定店舗にも変化が見られ始めたと思っています。

お店によっては、先ほど森スタッフリーダーからもお話がありましたように、軽トラ市の開催日にふさわしく、また、お客さんのニーズにかなう新たな商品を開拓したり、おもてなしの工夫をするお店も出てきました。また、空き店舗の利用者、そして、商店街の後継者なども現れてきています。軽トラ市での出店者と既設店舗での販売者の双方によるコラボレーションが、お互いの相乗効果につながっていると感じております。こうした状況から、これまでの軽トラ市の開催と取り組みの継続が、中心市街地にある店舗の経営者の希望につながっているのではないかと私は感じております。

そして、重要な要素の一つではありますが、このイベントにより市民同士の交流の場の創出です。これは市外の方も含めてですが、出店者や、また、既設の商店の方とお客さんとの対面の販売、そこには対話が生まれます。お互い対話を楽しむことがお店のファンやリピーターにつながっていると思います。実際に、来訪者と出店者との会話に滞在時間の3分の1を費やしているということも、戸田先生をはじめ、愛知大学の学生さんによる調査で明らかにしていただいたところです。単に商品を求めて来てくださるというだけではなくて、お店の人や関係者に会うのを楽しみに来るイベントになっていると言えます。

私の想像ですが、人と人、また、人と地域、そして社会とのつながりを強く感じることができる空間になっていることが、毎回多くの人を引き寄せる要因になっているような気がしています。こうしたことから、まちづくりの視点から、かつてのにぎわいが薄れて空洞化現象が見られる中心市街地において、多くの人でにぎわう笑顔の交流の場が創出されたことは、事業者や生活者に元気をもたらすことにつながり、地域の活性化や再生のためにも、軽トラ市は欠かせない事業だと思っています。

併せて、軽トラ市には、スズキさん、ダイハツさんにも大変お力添えをいただいています。来春には、先ほど森スタッフリーダーが言われましたように、スズキ自販東海の新城営業所が、軽トラ市の会場であります商店街の一角に、まさにど真ん中に移転、リニューアルオープンする予定でありまして、現在、店舗の建設工事が進んでいます。新しくできた国道のバイパス沿いではなくて、あえて旧道沿いに店舗を移転してくれることは、画期的な出来事だと捉えています。これをきっかけに、中心市街地に新たな価値を生み出せるような、軽自動車業界との連携とネットワークをさら

に築いていきたいと考えています。この点はまた後ほど少し話したいと思います。以上です。

○戸田：ありがとうございました。下江市長さんから、中心市街地の魅力創造に軽トラ市は非常に力があり、住んでいる事業者の希望だというのは、本当にそのとおりだと感じました。また、スズキさんのディーラー移転について、これについてはまた後ほど鈴木社長からも触れていただけたと思いますがよろしく願います。続きまして、掛川市長さん願います。

○久保田：皆さん、改めましてこんにちは。掛川市長の久保田崇と申します。本日は、全国けっトラ市サミット in はままつの開催、誠におめでとうございます。というふうに、つつい、けっトラ市と言ってしまっていますが、これが正しくなくて、本当は軽トラ市が正しいということ、今日この場で初めて知ったような次第です。今日はスズキの鈴木俊宏社長もいらしゃいます。所々読み間違いがあるかもしれませんが、その点はどうかご容赦をいただきたいと思っています。

駆け足ですが、掛川市はお茶と掛川城のまちだと思っています。冒頭、浜松の実行委員長さんから話がありましたとおり、明日の「どうする家康」、大坂の陣に始まりもう残り3回ですね。もうそろそろ「どうする家康」も終わりとなります。浜松さんはもちろん家康の出世のまち、そして、今お話しになった新城市さんも長篠の戦い等で有名ですが、掛川市も、掛川城が家康と今川氏真の戦いの舞台になりました。その後はいろいろ変遷を経て山内一豊の治めている時代もあったということで、そのようなご縁もあります。今年はそういう意味では、「どうする家康」効果で掛川城に来る人が増えています。

ちなみにもう一つ余計なことも言いますと、「どうする家康」の中で出てくる於愛の方という、秀忠を生んだ家康の側室がいます。広瀬アリスさんが演じていますけれども、その方も掛川出身で、西郷局や於愛の方と言われていました。

掛川市的には、JRの掛川駅から掛川城が大体徒歩圏内で、一応10分ぐらいで行くかと思いますが、その間のストリートというか、通りで軽トラ市をやっています。今日は他県の方もいらしゃいますので念のため申し添えますと、掛川駅は新幹線が止まる駅であります。ごだましか止まらないではないと言われるかもしれませんが、一応新幹線が止まる駅です。ごだましか止まらない駅というのは日本国内に3つしかあ

りません。新富士、三河安城、そして掛川駅です。ただ、新幹線駅から徒歩圏内でお城まで行けるというのは、実は全国的にもそんなないことだと思っています。掛川城に来る人はそこそこいますが、その間の商店街への回遊や、もう少し滞在時間を長くしてもらいたいというのが、まちづくりの課題として行政としても持っています。多分それをかなり埋めてくださっているのが軽トラ市なのかなと思います。本当は毎日やってくれたらありがたいのですが、今は月に1回ということで、新城市さんには負けますが、今度で135回ですかね。そういうふうなことをやっています。

ですから、そういう意味では市内の常連のお客さんも多いです、それからよそから来た方、それぞれ掛川城を見によそから来られた方が、たまたまその日に軽トラ市をやっていたらラッキーという形で、駅から買い物を楽しんでいるうちにお城に着いてしまうということもあります。そういったところを私どもとしてはもっと活用していきたいという視点を強く持っています。お城のことばかり申し上げて恐縮ですが、来年は掛川城の天守閣が復元されてから30周年です。復元30周年の記念行事や記念パレードなどいろいろなことを計画しているわけですが、例えばそういうものともコラボしてということで、また考えていきたいと思っています。以上です。

○戸田：久保田市長さん、ありがとうございました。まさに掛川はお城と新幹線の間、これが軽トラ市で結ばれると力があるということだと思います。どうもありがとうございました。続いて、中野浜松市長さんお願いします。

○中野：浜松市です。浜松の軽トラ市ですが、軽トラはまつ出世市は明日で10回目です。もうすっかりこの時期の浜松の恒例のイベントになってしまっていて、まちなかのにぎわいには欠かせないイベントとなっているところです。

元々、浜松はものづくりのまちとよく言われますので、どちらかという軽トラ本体のほうが有名だというふうには捉えられがちなのですが、実は農業産出額で言いましても全国7位を誇っています。また、170品目を超えるような、さまざまな農産物が作られている、そのようなまちでもあります。こういう新鮮な浜松の特産の農産物が購入できるということで、この軽トラ市は市内の皆さん、それから市外の皆さんも含めてまちなかへ足を運んでいただく大変良いきっかけになっ

ていると思っています。

例年、この軽トラ市に併せまして、手作りの雑貨などを販売していただくたま市や、商店街の臨時マーケットといった複数のイベントが同時に開催をされているところです。特に今年、明日はJAとびあ浜松の農協祭も軽トラ市近くの浜松城公園で大々的に開催していただけるということもありまして、そういったことの組み合わせで、この軽トラ市を中核にして浜松のまちなか全体がテーマパークのようになってきている、そういうようなことを感じています。これによりまして、まちなかに遊びに来ていただいた方の滞在時間も伸びていますし、普段行ったことのないお店に行くとか、さらには消費の拡大、こういったことにもつながっているのだらうと思っています。

浜松のまちなかの課題は今まさにいろいろありまして、歩く人、通行量の低下もそうですし、空き店舗も増えていますし、さらに、それに加えてのコロナの影響ということで活力が非常に低下をしてきていると感じています。この軽トラ市というのは、やはりまちなかに出掛けること、そしてまちなかの魅力を再発見するというで非常に良いきっかけになっていると思っています。これからの浜松の抱えるまちなかの課題解決、これを進めていくのがまさに軽トラ市だと思っています、これからも軽トラ市に期待するところは非常に大きく感じているところです。私からは以上です。

○戸田：ありがとうございました。軽トラ市を核にしてまち全体がテーマパークのようになるというのはとても魅力的なことだと思います。ありがとうございました。

それでは、今日のご欠席ですが、磐田の草地市長からコメントをいただいていますので、ポイントのところを私がお読みをしたいと思います。

「磐田の軽トラ市は平成23年3月からスタートし、途中、新型コロナウイルスの影響で8回の中止を経験しましたが、12年以上にわたり、定期的な開催を継続してきました。40回を超える軽トラ市を開催し、既存の商店の方の協力を得ながら、毎回多くの方が来場され、開催時には大きなにぎわいを生み出し、磐田市の代表的なイベントとなっています。」

開催時にさまざまな成果を上げるとともに、周囲への影響も広がってきたということで、いくつか影響を挙げていただいています。

「JRウォーキングイベント『さわやかウォーキング』

を軽トラ市に併せて開催していただき、電車で磐田市を訪れた方の誘客につながっています。2つ目が、磐田駅前の軽トラ市を参考にして、令和2年、新駅開業した御厨駅前において、地域の方が御厨軽トラ市を開催されるようになったということです。3点目、軽トラ市から中心市街地に可能性を見だし、地域のNPO法を事務局として、歩道を活用した『ほこみち』を開催できるか模索しています。』

「ほこみち」というのは国土交通省の事業です。「歩行者利便増進道路」ということで、歩道をいろいろな形で使えるようにしている新しい制度になりますが、それにトライしているということです。

「令和4年から、ジュビロ磐田のアウェー戦に合わせて軽トラ市を開催して、磐田市の特産品やグルメを対戦相手のサポーターの方にPRし、購入していただき、魅力発信につなげています。」ということです。敵に買わせているというのなかなかすごいと思いました。

以上のように、磐田市の軽トラ市は新たな試みにも挑戦しながら、にぎわい創造を続けています。課題も挙げられています。課題としては、「にぎわいが一過性のもので、商店街が常ににぎわうという活性化にはまだつながっていないというところ。』というメッセージをいただきました。

それでは、自動車業界、自工会に移りまして、軽自動車委員会の鈴木委員長、続いてご発言をお願いします。

○鈴木:まず、軽自動車委員長という立場を離れて、今、新城の営業所の話がありましたのでそれに応えさせていただきます。ぜひ、軽トラ市の活動拠点として活用していただくというのをお願いしたいと思います。スタッフ機能もそこでやっていくとか、そういうことでもいいと思います。デジタル化がどんどん進んでいくということで、全国の軽トラ市の開催日は違ってしますので、例えば、営業拠点に行くと、今日はどこどこで軽トラ市をやっているから、それをインターネットでつないでそこに行くと、あたかも対面販売しているような感じを味わっていただけて、その地域のものを買えるというような活用もあるのではないかと思います。そういうようなところで、地域の人と密着した販売店になるようにやっていきたいと個人的に思っています。国内営業がどう考えるかはまた別の話ですが、そのぐらいやらないと意味がないと個人的には思っています。

それと、けっトラ市という呼び方、これはどんどん変えてください。地域に愛される軽トラ市、これが一番です。だから、標準語を使う必要はないと思っています。ぜひ、親しみやすい、地域に愛される軽トラ市、これを表現する呼び方で全然構わないと思っています。

本題です。僕が思うのは、まちづくりから軽トラ市を捉えるというよりも、軽トラ市からまちづくりを捉えるということが必要なのではないかと思います。先ほども言いましたように、零石ではどういう発端で軽トラ市が始まったかというところ、中心街を何とかしなければいけないというようなことから始まっているわけです。浜松をはじめとして、郊外型の大型ショッピングセンターができてしまって、中心街に人がいなくなってしまった、集まらなくなってしまった。それと、中心街の商店街を形成していた人たちがそこに住まなくなってしまったと、これは大問題です。

そういうような中で、軽トラ市を活用してもらいながら、こういうことをやったら人は集まると。確かに、浜松市だと年に1回、他の地域でも月に1回ということで、それだから集客力があるというふうに思われるかもしれませんが、空き店舗が埋まり始めたとか、そういうような話もありました。そういうような中で、どういうふうを活用していったらいいのか、どういうまちづくりをしたら人が集まるのかというところ、これは、軽トラ市は動く販売拠点ですから、どういうふうレイアウトしたら、本当に人が集まってくれるか、あるいは、この店とこの店をくっつけたらもっと集まるよね、というようにも出てくると思います。移動できる軽トラをうまく使いながら、まちを設計していただくというような活用の仕方、まちづくりを活性化していくというところはあってもいいのではないかと思います。トライアンドエラーだと思います。だけれども、年に1回とか月に1回やるということで、大型拠点にも勝るとも劣らない、負けず劣らずの魅力を出しているわけですから、そういうようなところで、まちづくりをどうやっていったらいいのかということをやっていくべきだと思います。以上です。ありがとうございます。

○戸田:ありがとうございました。新城については、軽トラ市の拠点にしたらいいいということで、前に国内担当の専務が座っておられますが、多分そうなるのではないかと思います。名前もどんどん適応して、変えていけばいいということで、いろいろ出るのかもしれない

れませんが、本当に独自のものをつくっていくというご提案も併せていただきました。続いて、軽自動車委員会、武田委員をお願いします。

○武田：皆さんこんにちは。武田です。軽自動車業界を代表して、今、鈴木委員長から力強いお言葉をいただいたのですが、ぜひ、軽トラ市からのまちづくりを私たちも一緒に盛り上げさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

せっかくの機会ですから、私たち軽メーカーがどのような想いで皆さんと一緒にいきたいかということをお話ししたいと思います。まずは私個人なのですが、軽トラ市と接する最初のスタートは、実は、スズキの鈴木修相談役と、それから、隣にいらっしゃる鈴木社長とお話しする機会があった時に、お2人から面白いことを言われました。「これからは田舎の時代であり、その田舎を活性化するのは、地域に根差すべき軽業界、私たちの使命なんだ」と言われて、その場でそのとおりだと思いました。軽業界を挙げて軽トラ市を応援することを通じて、日本を元気にできたらという想いでいっぱいです。スズキさんも一緒だと思います。

ご存じのとおり、日本の地方は今、大変です。バスの路線がなくなり、タクシーまで厳しいというところで、多くの皆さんが本当に困っていらっしゃいます。ご承知のことだと思いますが、そのような地域では、軽自動車は一家に1台2台どころか1人に1台になっています。これはもうまさにインフラになっています。そういう意味では、少し言い過ぎかとも思いますが、私たち軽自動車業界は、地域を支えることができるようなインフラになりたいという志を、鈴木委員長を含めて皆が持っています。

インフラということになりますと、これはモノや人を運ぶだけではなくて、その先にある生活を支えるとか、豊かになっていただくことのお手伝いできないといけませんし、まちづくりにも貢献していくべきだと非常に強く思っています。鈴木委員長に言っていたのですが、これは業界主導で、自工会を挙げて、本当に真剣に取り組むたいと思っています。そういう意味では、今日の話題である商店街の復興や地域の復興、それを通じた人材育成、もっと言うと、新しい世界のスタートアップみたいなのところもつながっていくように思うのですが、そういうことも、私たちも一緒に進んでいけるのではないかと考えています。

最後に、実は軽自動車は本当に昔からお客さまの生

活のシーンで育てていただいています。本当にありがたいと思っています。そうした軽自動車で恩返しをして、軽トラ市を応援することでまちづくりにつながる事ができたらと、本当に心から思っています。ぜひよろしくをお願いします。以上です。

○戸田：ありがとうございます。軽自動車は生活を支えるインフラだということで、軽トラ市はスタートアップにつながるということです。軽トラ市はここからどんどん変わっていくということへの励ましといいますか、エールもいただいたというふうにも思います。

それでは、最終章で取りまとめになっていきます。先ほど、鈴木社長から、軽トラ市からまちづくりを考えるのだというお話がありましたが、「軽トラ市によるまちづくりの展望」ということで、まとめに入りたいと思います。今度は、軽トラ市の方々にまず発言をいただいて、そして自動車企業のお2人、最後に市長さんたちという順番でご発言をいただきたいと思っています。時間がやや押していますので、時間厳守でお願いをしたいと思います。それでは、軽トラ市運営者の皆さんからご発言をいただきたいと思います。「軽トラ市によるまちづくりの展望」であります。まず、新城の森さんからお願いします。

3. 軽トラ市によるまちづくりの展望

○森：よろしくお願いします。まず、新城ですが、ご多分に漏れず、人口が今、残念ながら減っています。市長も一番心を痛めているところだと思いますが、人口が減り続けて、今、最新ですと、約4万2,000人ほどになりました。軽トラ市が始まったころは5万人ぐらいいいたと思いますが、だいぶ減ってきています。

ただ、軽トラ市やいろいろな大きなイベント、先日終了になってしまいましたが、全日本ラリー選手権などになりますと、一気に市内の人口を超える人が来ることもあります。軽トラ市をはじめとするそういうイベントなどでは、やはり、よく言われる交流人口、来て、ものを販売する、買っていただける、それぞれの人たちが外から来るということで、住んではないけれども、瞬間的には交流する人口を非常に増やすという効果があります。軽トラ市に関しましては、定期的に行っている、あるいは、新城の軽トラ市では半分以上の方が毎月楽しみに来られるということで、これは半ば、人口が一瞬増えていると同じようなことでありますので、まずそういうところから入ったり出たりす

る人を増やすという効果が非常にあるので、これでまちづくりをまた考える視点が少し変わるであろうということをおもいます。

それから、このごろ多いのが、いろいろな県内、県外のイベントで、軽トラ市に来てほしいという依頼が非常に多いです。軽トラ市に出店する人たちにまとめて来てもらってうちのイベントでミニ軽トラ市を開催してほしい、パッケージで来てほしいという依頼です。これは軽トラ市というネームバリューが非常に広がったということで、主催者でも、ただキッチンカーが来ますというよりも、軽トラ市が来ますというと、魅力がものすごく増えるそうなので、こういう意味でも、軽トラ市というのはいろいろな切り取り方ができるイベントです。

新城でも、いくつかはサテライトとして、もう少し奥の小さな町、小さな村でも軽トラ市が展開できればという考えも持っていますので、切り取り方でいろいろなまちづくりの手法に組み込むことができる可能性が非常にあるのだと思っています。

もう一つは、やはりデジタル化と切り離せません。これからは60代、70前後ぐらいの方でもスマホを自由に扱う時代になっていますので、若い人たちの特権ではなくて、情報インフラとしてはほぼ9割以上の方に配備されていると考えても間違いではないと思います。特に磐田さんあたりは先陣を切っているようですが、デジタル化というところも必要だと思います。軽トラ市は本当にどアナログです。人と人との対面という場面ですが、上手にデジタル化も組み込んでいくことで、若い方も、出店者、あるいはお客さんとして来るという可能性が大きくなると思います。そういうところを取り入れながら、軽トラ市、名前は変わらずとも、中身がどんどん進化していくと期待しています。以上です。

○戸田：ありがとうございます。いくつかのポイントを出していただきました。分散型軽トラ市と言ったり、あるいは、出張軽トラ市と言ったり、そういう形が出ています。私は軽トラ市を可動商店街と言っていますが、さまざまな組み合わせが広がっているということですし、DXも重要なご指摘だったと思います。続いて、かけがえが軽トラ市です。落合さんお願いします。

○落合：掛川でも、先ほどの新城の森さんがおっしゃったように、やはり、イベント事があると駅前もすごく

来訪者が増えたり、その関係で宿泊をされると飲食店に人が流れたり、そういう交流人口の効果もあつたりします。

けつトラ市に関連して言うと、先ほど磐田市長のコメントの中にもありましたが、JRの「さわやかウォーキング」が一緒になると、やはり効果も絶大ですし、何らかの形で他のイベントと一緒になったりすると、その時には来場者数が著しく増えたりもしています。それも絡めて、先ほどお城の話も出しましたが、それこそ駅から歩いて5～6分ぐらいで掛川城に着きますので、歩いてそういう文化施設にも駅からすぐに行けるといことも踏まえて、けつトラ市とそういうものがうまく連動できれば、そういう人の流れが増えてくれば、また商店にも波及するのではないかと考えています。

つま恋やエコパスタジアム、エコパアリーナや近隣の市内および隣の袋井になりますが、近隣の施設で大きなイベントがあつたりすると、やはり人の流れの効果がきめんに出たりしています。コロナ前までは、掛川駅前はある意味、夜の街と言われていまして、飲食店の集積がすごくて、夜の人出がかなりすごかったです。昼間は、正直言ってやっているかやっていないか分からないと言われていたような状態で、夜になると明かりがついて、人通りが全然違うと他の市の方からよく言われました。それもコロナで一回沈んでしまって、今まただんだん盛り返しているような状態です。どのような形でもいいので、人の流れが増えて、そういう波及効果が出ればいいなと私個人は思っています。

正直に言うと、昔の商店街のにぎわいというのは、個人的な感想もありますが、ものの買い方も変わっているし、いろいろな商売的なやり方も変わってなかなか難しい面もありますので、時代に即したやり方などをいろいろ考えながら進めていきたいと思っているのが今の心境です。以上です。

○戸田：ありがとうございます。特に、観光ですね。掛川に行く私もすごく思います。またあと市長さんからお話があるかもしれませんが、お城という非常に大きな観光資源で、商業型軽トラ市だけではなくて観光型軽トラ市という形もあつていいと思います。もちろん、それは広く商業ということなのですが、さまざまなタイプの軽トラ市を生む可能性があるのではないかとこのふうにも、今お話を伺っていて思いました。続いて、磐田軽トラ市の山下さんお願いします。

○山下：将来の展望ということで、皆さんからも言われていますが、今、デジタル化に取り組んでいます。ただいろいろな形があると思いますので、今はまだ模索中ですが、先ほど発表した3点ほどがありました。

あと1つ、軽トラから起業しやすい環境整備と支援が必要ではないかと思っています。先ほどの意見の中でも、やはり軽トラをお店に例えるということで、新規開業でということでは運転資金などいろいろ非常にかかると思いますが、まずは軽トラ市から波及して、キッチンカー、それから地域の開店へということで、軽トラ市を目指した最初の原点に戻りまして、活性化、空き店舗対策につながっていくのではないかといいところを今後はしっかり真剣に考えなければいけないと思っています。

もう一点は、磐田ではこの軽トラ市を基に、先ほど市長が言っていました「ほこみち」、車道から歩道へ形を変えた軽トラ市も実証実験をしています。この先、磐田のこの軽トラ市、他の全国の軽トラ市の皆さんのものを模範にしながら、いろいろな形で継続していけば、また違った形の地域の特性が生かせるのではないかと思います。

最後に1つ、いまだに減らないわれわれ来場者なのですが、ということは、まだまだこの街には活気があると思っています。それを運営者自身がまだしっかり生かしきれていないのではないかといいています。チャンスが隠れているこのまちの良いところを見つけ出して、スポーツのまち全国1位だけではなく、われわれ商店主が先頭に立って商売しやすいまち、住みよいまち全国1位になるよう、会議所、市役所と一緒にわれわれ運営者もまい進していきたいと思っています。以上です。

○戸田：ありがとうございます。「ほこみち」というのは新しい制度で、磐田は道が広いですから、歩道の空間も使っていくと随分また広がりが出ていくと感じました。また、スタートアップの段階、店舗への起業の段階と併せて、軽トラ市はより意味を持つてくるのではないかといい感じがしました。ありがとうございます。それでは、浜松軽トラ市の河合さん、お願いします。

○河合：今回、初めて浜松が全国軽トラ市に参加させていただいたのですが、軽トラ市は非常に奥が深いと感じています。愛知大学の方々の、ちょうど入り口のところにパネルもありましたけれども、一つは、可動

商店街という考え方はなるほどと思いました。それから、先ほどの軽団連で話が出ましたように、皆さんの持っている課題が結構似ていると感じました。ずっと浜松でやってきたわけですがけれども、やはり、他のところで工夫しているところはどんどん情報交換しながら、より良い軽トラ市というのを目指していかなければいけないと思っています。

それから、先ほども浜松で少し課題を挙げましたがけれども、少しずつ若者向けや、それからやはり目先を今の時代に合ったというか、そういったところは、運営の部分もそうですし、それから、実際、当日のイベント自体もそうですと思っています。いずれにしても、今回のテーマであるまちづくりというと行政さんとももっと連携したほうがいいのか、それから、商店街の人たちがどうしてほしいかといったような情報も吸い上げながら、また新しい軽トラ市を模索していきたいと考えました。以上です。

○戸田：ありがとうございました。全国で軽トラ市をやっている都市の中で、やはり政令市というのは珍しいのではないかと思います。そういう意味で、多様な方々がどう軽トラ市に参画していくかというところは、ご指摘がありましたが、非常に重要なポイントだと思います。若い人や地域連携があるというのも非常に重要なことだと感じさせていただきました。続きまして、自動車工業会からご発言いただきたいと思います。今度は順番が逆ですが、武田委員、そして、鈴木委員長をお願いします。

○武田：先ほど、少し想いや、軽トラ市を通して貢献したいという夢の部分を申し上げました。皆で夢を見ていきたいというのが一つです。ただ、プラスして、今の地方の現実を見ると、先ほどもお話したとおり本当に苦勞している方々がたくさんいらっしゃって、何とかまちを復活させたいという想いを持っている人がたくさんいると思います。その人たちを現場から支えていくということも使命なのではないかと非常に強く思います。ビジョン、夢と現場からの盛り上げ、この両面が大切だと思います。軽自動車業界を挙げて応援をしまいたいですし、さらに、政治の領域の皆さま方、それから、今日はマスコミの方もいらっしゃっていますが、ぜひ一緒に応援をいただきたいと思っています。

それから、軽トラ市の出店者様をサポートしたいと思ひまして、Nibako 事業というのを始めています。Nibako 事業というのは、荷箱を貸すのですが、軽ト

トラックの荷台に箱を積みまして、そのまま積んでいって左右後方の3か所の扉を開くと、ガルウイングのようにお店になる。何の準備も要らなくてお店にできます。加えて、Nibako サイトをつくりまして、出店場所の紹介、ノウハウの展開、事業者間のネットワークづくりなどで、皆さんのお手伝いをしていきたいと思っています。

このNibakoを使って、先だっのジャパンモビリティショーの軽トラ市では、リアルとバーチャルをつないだ「リモート軽トラ市」というのをやりました。これは将来に向けてのチャレンジということです。そこで遠隔地の生産者様とリモートでつないで、お客さんがリアルにその地域の特産物の買い物を楽しんでもらうということをやりました。地域のつながり、広がりが期待できると思いました。まさに軽トラ市は、少し高邁（こうまい）に言う、日本型の社会システムの1つとして、うまく作用していくのではないかと思います。一步一步、今の軽トラ市を応援させていただいて、デジタルとリアルを駆使して、新しく、かつ、ぬくもりのある、そのような日本型の津々浦々の文化まで発展できたらというような夢を見ている。よろしくをお願いします。ありがとうございました。

○戸田：ありがとうございます。広く軽トラ市を捉えて、日本型の社会システムということでご発言をいただきました。続きまして、鈴木委員長をお願いします。

○鈴木：先ほども少し話をさせていただきましたが、やはり時代と共にどんどん周りが変わっていますから、軽トラ市もデジタルをうまく使いながら発展させていくことが必要だと思います。

運営側で言うと、全国でこういうふうには皆さんが集まって困り事や悩み事を相談するという機会はあるのもいいと思いますが、それ以外、全国軽トラ市は、デジタルを使うと先ほども言いましたように、同じ日にやっているところだったら、ネットでもつないで、いろいろなフェーストフエースの会話を楽しみながらショッピングができるという世界、そういうようなところがあるのではないかと思います。リアルプラスデジタルというところで、そういう活用方法をやりながら発展させていくことが本当に必要なのではないかと思います。

それこそ、今言ったものが全国軽トラ市だよねと、お客さんから見るとそういうことだと思います。そういう運営ができるように、そして、やはりシャッター

街の復活、再生に向けて、軽トラ市を有効に活用していただくというのがあると考えています。

メーカー視点で言うと、軽トラ市は軽自動車を使っていると思います。トラックであろうと、バンであろうと使っていると思います。そういうようなところで、やはり使いやすい軽トラとは何か、軽バンとは何かということ、を、どんどん意見を入れていただければ、本当に改良していくということにもなると思います。営業拠点が全国にありますので、営業拠点のスタッフを軽トラ市のスタッフとして活用していただくということもぜひ考えて欲しいと思います。悩み事は相談していただければ対応するというので取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。以上です。

○戸田：ありがとうございます。デジタルの活用はいろいろあると思いますが、全国に応用していくという見方も、これは重要なポイントだと思います。先ほど武田さんからもありました、Nibakoという、これは車の形が変わっていくということだと思いますが、そういう点にも、まちになっていく車という、こういう発想だろうと思います。そういう意見も軽トラ市は非常に最前線のところかと思っています。あと、人材育成のご指摘もありましたので、それは非常に現実的な話だというふうにも感じました。

それでは、最後に各市長さんからご発言をいただきたいと思っています。まず最初に新城市長さんをお願いします。

○下江：新城市の観光の視点から、まずは話したいと思っています。新城市は長篠の戦いがあった場所ということで、先ほど掛川市長さんからもご紹介いただきましたけれども、今年は大河ドラマ「どうする家康」の放送があったことで、本当に多くの方がいらっやっています。今も来ています。

そして、この歴史資源を活用した観光ともう一つの観光の柱として、スポーツツーリズムを位置付けています。自然豊かな環境を活用したアウトドアスポーツのイベントとしまして、例えばトレイルレースであったり、それからサイクルレース、自転車競技、それから川遊び、フィッシングを楽しむフィッシングツーリズムというような、こうした活動を年々活性化しています。これらの市内のさまざまな場所で行われているイベントに、戸田先生が言われる可動商店街としてのお店の出店を、例えば出張ミニ軽トラ市のような形でさらに増やしていくことが望ましいと考えています。

そして、軽トラ市の会場の真ん中に営業所を構えてくださいますスズキ自販さんと連携をし、お力添えをいただきまして、軽トラ市の開催による商業の振興にとどまらず、観光振興の面における、例えば、新城市の観光二次交通がまだ不十分という課題もありますので、そうした課題におきましても協力体制を築いたり、例えば、カーシェアなども仕組みを検討したりしながら、こうした取り組みを一步前に進めることができれば、軽トラ市への来訪者の満足度の向上や、また、新たな価値の創出にもつながるのではないかと考えています。

そして、先ほど森さんも言われましたが、新城市は愛知県に37ある市の中で最も高齢化が進んでいる市であります。そして、人口減少も最も早いスピードで進んでいる市であります。しかし、外国籍の方の人口は、過去10年ぐらいつと増加傾向にありまして、コロナ禍の2年間は若干減少傾向にありましたが、増えています。ブラジルの方が一番多くいらっしまして、ベトナムの方、フィリピンの方、中国の方と、こういう順になっていますけれども、こうした外国籍の方の市民とのお互いの理解を深めて、共生社会を築いていくための交流の場に、この軽トラ市を位置付けたいと私は考えています。また森さんにも相談して、これまでも、例えばスリランカカレーを提供するお店もありますが、さらにそういう外国籍の食文化をお互いに知ることから理解を深めていくような場になっていけば、外国籍の方がより安心して暮らせるまちづくりにつながっていくと思います。軽トラ市の発展的な進展と併せて、そういう形での取り組みも考えていきたいと思っています。

○戸田：ありがとうございました。下江市長さんからは、観光との連携で、これは交通を使ってという点で言うと、先ほどのスズキ自販さんとの関係というのは強いと思いました。あと、外国籍の方とそういう交流の場に活用していくというご指摘をいただきました。続いて、掛川の久保田市長さんお願いします。

○久保田：今日このシンポジウムに出ながら、けっトラ市というものと、それから、私どもが抱えるまちづくりの課題というものが、どういうふうにもっと深められるかということ、つらつらといろいろ考えていました。これは自分自身に向けて言うようなところがあるのですが、やはり、これから私ども行政が一生懸命やっっていけないといけないうのは、空き家対策と空き

店舗対策だと思います。私が今年ショックを受けたことの一つは、掛川市内で昨年亡くなった人の数を調べてみたら、過去最高だったのです。皆さんのところも調べてみてください。そういうところが少なくないはずで、多くの方が亡くなるフェーズに入っています。そうすると、亡くなった人の数だけ相続があります。お一人暮らしの方が亡くなれば大体空き家になりますから、相続の時に空き家は生じやすいです。空き店舗はもう少し早い段階で生まれる可能性が高いです。

今現状は、けっトラ市の出店者さんと、それから、まちなかの商店街の方というのは、必ずしも一致していないことが多いです。うちの掛川の落合さんは商店街の名店会の会長ではありますが、多くの出店者はまちなかとは関係ない人がやったりします。そういう中で、やはり掛川市も駅前商店街はそれぞれ空き店舗が多いですから、そことけっトラ市をもっとつないでいくということができるかと思っています。

これは出店者に働きかけるだけでは駄目だと思います。そうではなくて、やはり空き店舗の側に働きかけるというか、そちらのほうをやって、何か片付けをすることの補助やお手伝いをしたり、そういったことももっとやっっていけないと、これから空き店舗の方、掛川の場合はまだ所有者が存命の場合もありますが、そういった方が亡くなり、これがまた相続されると、もっと状況が複雑になりますので、そうならないうちにそういった対策も打てればと思います。けっトラ市というのはまちなかに人を戻すだけではなくて、商店街そのものが持っている課題の解決にも役立つのかなということも思いましたので、引き続き頑張っていこうと思います。ありがとうございます。

○戸田：ありがとうございました。これも非常に現実的な課題だと思います。軽トラ市出店者と空き店舗の組み合わせをどうやっていくかということで、ここには行政の力は非常に大きいと思います。川南（宮崎県川南町）では確か7店舗ぐらい、軽トラ市を契機にして新店舗が入られたと聞きました。こういうメカニズムを見ることもとても大事なことだと思いますし、空き家側からこれを開いていけるような、今、市長さんがおっしゃった仕組みができればとても力強いと思います。

中野市長さんに行く前に、磐田市長さんからメッセージがありますので、これをご紹介しますと思います。まちづくりの展望ということで、草地球市長さんです。

「磐田の軽トラ市の展望についてということで、現在訪れていただいているお客さま以外の新たな客層の

取り込みや開催にかかる負担の軽減、今後も長く続けていくための方策を考えています。」ということです。

1つには、これまでも議論に出ました、「令和4年度よりの公式軽トラ市LINEを立ち上げて、事前に出店者情報やイベント情報を発信することでユーザーの利用性の向上につなげました。」。

それから、2つ目が、「磐田市の全国軽トラ市へ新城市が参加、掛川の全国軽トラ市に磐田市が参加するなど、軽トラ市同士だけではなく、軽トラ市開催自治体同士の連携というのはある。」というふうにご発言があります。

それから、12月10日の軽トラ市で、磐田のイメージキャラクターしっぺいの感謝祭を開催されるということです。磐田の軽トラ市へのLINEの導入に当たっては、これも先ほどお話がありました、「スズキ株式会社からのご協力をいただき、今後もデジタル化を進めることでサービスの向上につなげていきたい。」ということと、「軽トラ市の開催は多様な市外の人材が本市の地域づくりに参画するということで、関係人口の増加につながることから、本市への移住・定住のきっかけになると期待している。」というようなご発言をいただいています。

それでは最後になりますが、中野浜松市長さんお願いします。

○中野：われわれ浜松市は政令指定都市ではありますが、ご多分に漏れず人口減少が続いています。この流れを変えるためには、浜松からの地方創生、つまり、しごとの創生、ひとの創生、そしてまちの創生、これをしっかり取り組んでいかなければいけないと思っています。その中で、特に浜松の顔でもありませんまちなかの創生、これはやはり、ここ浜松が人の集うまち、そうしていくためにも進めなければいけない非常に重要な課題だと思っています。

そうした中にありまして、浜松における軽トラ市といえますのは、浜松の主要産業であります輸送用機器、2次産業ですよ。そして、多彩な農産品という1次産業、それに、商業、観光、さらには食、そういった3次産業というふうな、この浜松の1次、2次、3次産業の強いところばかりを組み合わせるような、浜松における究極の6次産業というような、そういったようなイベントだと思っています。まちのにぎわいを取り戻す、まちの魅力を高めるという点でも、非常にインパクトの大きいイベントだと思っています。ですので、これからも浜松の軽トラ市を中心として、このまちの

創生に取り組んでいきたいと思っています。

ただ、浜松におきましては軽トラ市は年に1回、この時期の恒例イベントということですので、これは一過性に終わったり、単発で終わるのでは全く意味がないわけです。この浜松の軽トラ市で生まれた流れをまちの活性化に引き込んでいくという、そういう仕掛けを商店会の皆さまをはじめとするまちなかの関係者の皆さんとしっかり連携をしながら考えていかなければいけないと思っています。

○戸田：ありがとうございました。最後におっしゃった、まちづくりの仕組みとこの軽トラ市をどうつないでいくかということが眼目だというふうに向いました。

それでは、皆さんにご発言をいただきましたので、最後に軽トラ市の運営者の方々から、一言ずつお願いをしたいと思います。森さんから、落合さん、山下さん、そして、河合さんということでお願いします。

○森：私からは一言、地元の開催していただいた浜松商工会議所のスタッフの方、法被を着た方、皆さん睡眠不足で、今日は倒れずに頑張っていたので、お招きいただき、本当にありがとうございました。今日明日と一生懸命頑張って、素晴らしい全国大会にしていきたいです。本当にありがとうございます。(拍手)

○戸田：ありがとうございました。では落合さんお願いします。

○落合：森さんがおっしゃったことが全てですので、以下同文とさせていただきます。(拍手)

○戸田：ありがとうございました。では山下さんお願いします。

○山下：今後、自動車が空を飛ぶかもしれません。自動になるかもしれません。そういった、いろいろ時代の変化に対応した運営を続けていきたいです。このネットワークを基に、いろいろさまざまな連携を取っていききたいです。今日は楽しませていただきまして、ありがとうございます。(拍手)

○戸田：ありがとうございました。では河合さんお願いします。

○河合：先ほど申しましたけれども、この前の会議で

いろいろ良い話があり、すごく良かったと思ったら、この後の交流会、それから2次会だともっと良い話が聞けるということで、今日は楽しみにしていますのでよろしくお願いします。(拍手)

4. シンポジウムアピール (宣言)

○戸田：今日は長時間ありがとうございます。

最後のアピールということでもあります。

本日は3つの議論をしていただきました。まず、三遠南信地域の軽トラ市という比較的近隣の軽トラ市で、日頃行き来のある軽トラ市の皆さんに活動をご紹介いただいて、そして、「まちづくりから軽トラ市を捉える」ということで、今やっているまちづくりから軽トラ市を捉える、最後に、「軽トラ市によるまちづくりの展望」ということでお話をいただきました。

最初は本日の宣言を「軽トラ市を全国まちづくりのスタンダードに」と書きましたが、本日の議論から「新しいまちづくり」とやはり言うべきだと思いました。可動していくということは、これまでの固定の都市ではできないことです。そして、全部がバーチャルの都市になってしまうと実空間がなくなってしまいますから、この可動がリアルとバーチャルをつないでいくということだと思います。そういう意味で、新しいまちづくりの展望として「軽トラ市を新しいまちづくりの全国スタンダードに」を宣言とし、これが全国のスタンダードになっていけば素晴らしいと思います。

また、先ほどお話があったとおり、この後の交流会でいろいろなお話をもっと出るとと思いますので、それにも期待をしたいと思います。パネリストの皆さん、長時間どうもありがとうございます。また、後ろで1分前だとか、時間ですとか、かなり細かく時間管理をやらせていただき、大変失礼しました。どうも長時間ありがとうございます。(拍手)

○司会：戸田先生とパネリストの皆さま、ありがとうございました。軽トラ市をきっかけに、地域のまちづくりと連動して盛り上げていただけるよう、今後も期待しています。

以上をもちまして、第8回全国軽トラ市inはままつ、全国軽トラ市サミットシンポジウムを閉会します。

テーマ：軽トラ市とまちづくり

- 1.三遠南信軽トラ市の紹介
- 2.まちづくり から軽トラ市を捉える
- 3.軽トラ市による まちづくりの展望

(宣言)

軽トラ市を新しいまちづくりの全国スタンダードに

— 第三回全国軽トラ市サミット —

図表 32 シンポジウムアピール (宣言)